



# じとせんひろば

No.109 2023年(令和5年)1月1日

地御前地区自治会



2017年の宮島海上花火大会 撮影:岡島和生氏(香川県在住)

**新年あけまして  
おめでとーございませう**

皆様の健康と多幸をお祈り申し上げます

令和五年元旦

地御前地区自治会

地御前地区自治会Webサイトはこちら→



## トピックス 防災総合訓練

2022年(令和4年)11月13日(日)に6年ぶりに地御前地区自主防災会による防災総合訓練が、大規模災害が起きた時に避難所が開設される野坂中学校で行われた。10時に各町内会長へ携帯電話で避難所開設の連絡をして避難開始とし、実際の災害時の避難を想定した受付や待機場所の振り分けを行った。事前の予報では雨だったが、避難移動時は幸運にも雨が一時的に止んでおり、約200名が体育館に集合した。

開会行事の後、消火器使用訓練、救護体験、備蓄物資説明、仮設間仕切り組み立て、防災マップ説明の5つのブースをグループに分かれて順番に廻り、個別訓練を行った。廿日市消防団第4分団、J A広島総合病院の地域連携携医療室、市役所危機管理課の協力により、各ブースでの意義深い訓練や指導を体験した。

消火器による消火訓練では、消火剤の噴出時間は20秒から30秒程度であることや、消火剤の勢いで逆に火種



が飛び散ることを避けるために近くの天井や壁に当てて間接的に消火剤を火元に吹き付けることなどを学んだ。また炎が天井まで届くほど火元が大きくなった場合は消火よりも避難を優先する必要があることも学んだ。

備蓄物資の説明では、地震などで上水が利用できなくなった場合に、給水本管から切り離して非常用貯水タンク(容量100t)として利用できる設備がキラキラ公園の地下に設置されていることを学んだ。

昨今では毎年のように日本のどこかで豪雨災害が発生していたり、地震も頻発しているが、日常生活ではまだまだ自身のこととして捉えることは乏しい。このような訓練の機会を通じて非常時の対処方法についての各自の引き出しを増やすことができたいと思う。

## 犬や猫のふれあいとそのマナーについて

犬も猫も飼育した経験があるが、飼育しているというより家族の一員。いなくてはならない存在になる。一方で、飼い主次第では迷惑な存在にもなる。令和4年6月1日から犬や猫を購入する場合はマイクロチップが装着され、飼いの情報登録が必要になった。飼いの場合は、毎日の散歩の

## 相良宏三様を偲んで

令和4年11月20日(享年87歳)この世にお別れをして旅立たれました。訃報のお知らせのあと、徐々に色んな事が思い出されてきました。

私が自治会に入るきっかけは相良さんの声でした。当時、現吉本会長のお父様の武様がコミュニティの会長をされていて、相良さんは体育部長でした。地区運動会が雨で体育館で行われていて、本部がバタバタと忙しくされているのを見て思わず「何かお手伝いしましょうか?」と言った一言で体育部に所属することになり、会長の教えを頂きながら会計もさせてもらい、相良会長になられたあとも会計と副会長というお仕事で側で学ばせてもらいました。

いつも微笑みながら『できるときに、できることをやればいいんだよ』と言ってもらい、ずいぶんとその言葉に甘えさせていただきました。また、『私の考えが間違っている方向に行き出したら遠慮なく肩を叩いてくれ!』と言われて、イエイエ私などそんなお役目なんてできませんよ。と笑って答えてました。さすが相良さん!ご自分の意思で潔く退かれました。私は一つの時代が終わるのを見ました。傍ら寂しげな表情もされたのを覚えています。その後も学校評価委員、税の教室などもされ、忙しくされてました。最近では車椅子で子どもの見守り活動もされ子どもたちに声かけもされている姿も見かけました。思い出することは多々ありますが、長い間地域のことに心配りされ感謝申し上げます。心よりご冥福をお祈り申し上げます。ご家族の皆様にも感謝申し上げます。

自治会副会長 向佳

際、ウンチやおしっこをさせる。ウンチは飼い主がかたづけするが、おしっこはそのままが多い。しかし、塩分や臭いが残るため、水をしっかりかけて洗い流し、周囲に迷惑をかけるないようにする必要があります。

飼いの場合は、放し飼いにするとウンチやおしっこを外でするので、周囲に迷惑をかけることになる。家の中で飼うか、犬と同様に紐付きで散歩させ飼いがウ

ンチやおしっここの面倒をみる必要がある。

野良猫の場合は地域の理解を得て、地域猫として餌やりと避妊・去勢をセットに、尊厳を保ちつつ繁殖を防ぐ必要がある。

このようにマナーを通じて犬や猫と人間の豊かな共生社会を実現したいものだ。(文・林 忠正)

## 編集後記

★一年があつという間に感じられる。歳をとるにつれて早く感じるといふが、諸説がある。一年を相対的に捉える(5歳だと5分の1、50歳だと50分の1)からという説。新しい発見や感動が少なくなるからという説。同じことを繰り返すことが多くなるからという説。忙しくて暇でも、時間が経つのを早く感じるといふのも不思議。結局は各々の主観に委ねられる。今年も新たな経験、学習、発見、感動、共感を重ねてゆくことに本紙が「助となることを願う。」

J.K

★好きな書籍、映画の記事を募集します。投稿をよろしく願います。

RXEI5645@nifty.ne.jp

## 1月週末毎 宮島海上花火大会開催

世界遺産の島・宮島で1月14日、21日、28日の各週末にそれぞれ300発の花火が打ち上げられる。各日も午後6時から、千畳閣沖の海上で2〜4号玉を打ち上げる。

廿日市市や廿日市市商工会議所などで作る実行委員会が、厳島神社の大鳥居の大規模修復工事の完成を記念し、観光客を誘致することが目的。初詣が一段落する1月中旬から2月は観光の閑散期に当たる。週末花火の開催でこの時期の宿泊客の増加や島の滞在時間の延伸による経済効果が期待される。

広島県内でも以前は毎年各所で大規模な花火大会が開催されていたが、徐々に中止が相次ぐようになった。太田川花火大会が平成14年(2002年)を最後に中止され、更に宮島水中花火大会も2019年8月を最後に中止された。以降も各地での花火大会がコロナ禍で中止が続いており、昨年からようやく各地で花火大会が再開され始めている。

花火大会も商業主義感はあるが、江戸時代からの伝統や粋をどこかに感じさせ、他のイベントとは一線を画しているものがある。不定期でも続いて欲しいし、是非盛り上げてゆきたいものだ。

## 「地御前ものがたり」改訂版第3版制作着手

地御前小学校の郷土学習授業の副読本としても活用されている「地御前ものがたり」だが、地御前小学校卒業生に毎年贈呈してきたスタンプがなくなることを機に、記載内容の更新を行って増刷することになった。

地御前小学校卒業生用1000部、転入者用800部、希望者販売用200部が第3版として印刷される計画だ。

発行にあたっては地御前地区自治会を通じて「赤い羽根ESDプロジェクト」を活用し、3月まで募金活動を行う。

編集は郷土文化保存会が中心となつて、3月末頃までに編集作業を終え、入稿・校正・印刷を5月中旬までに完了させ、6月完成予定。地御前郷土文化保存会を通じて入手可能(500円程度)となる予定。





## ハッピー秋祭り開催

10月16日にハッピーオレンジ隊結成以来初めての発表会を開催しました。体育館にはスタッフや子どもたち、そして招待したお客様を含めて約150人が集まり、感染症対策をとりながら賑やかな空間となりました。

この日のメインイベントとして、ハッピーオレンジ隊が今までの集大成として自作のダンスやみゆり先生のダンスを含めて計5曲のダンスを披露。緊張気味だった子どもたちも踊り始めると今までの練習の成果をしっかりと披露できました。これまでの練習も含め一番よかったように感じます。

そして友情出演として、今まで2曲のダンスをハッピーオレンジの子も達にも教えて下さったみゆり先生のダンスチームのキッズHIPHOPクラブもダンスを披露してくれました。高学年ともなるさらさらキレイのダンスを見せて下さり、ハビオレの子も私たちも見入っていました。

ダンス披露の終了後は、少しお祭り気分を味わってもらうおうち、輪投げ、射的等の遊びブース



を設置。スポーツ体験ブースでは自治会の方がベタンクとラダーゲッターを教えてくださいます。やっぱり子どもは遊びが大好きです。ペタンクやラダーゲッターはほとんど経験したことのない子どもたちで、興味津々で教えてもらっていました。

これを機にもっとやってみたいという子どもたちが増えて、地域の活性化に繋がればいいなと感じました。

元々この日は地区運動会が行われる予定でしたが、色々な事情で急遽中止となり、残念がつる子どもたちが沢山いたという声を耳にしています。将来を担う大事な子どもたちの為にも、そして活動的な地域の方々の為にも少しでも元気になること、楽しいこと、一丸となつて取り組んでいけることを、そして地域活動を失速させて行かないためにも今のコロナ時世と上手に向き合つて活動していく流れができるといいのではないかと思います。

(文向 佳)



## 第5回地御前ウォークラリー開催

11月19日(土)午前9時から、自治会青少年事業部主催のウォークラリーが行われた。昨年にも丁度コロナ感染症拡大が落ちていた同じ11月頃に開催して好評を博し、今年で5回目だったこともあって、地御前小学校の児童や保護者の皆さんに「気兼ねせずに参加できる楽しい活動」として認知されてきたようだ。今年には約100名(20チーム)の参加申し込みがあった。青少年事業部だけでは到底運営できなかったが、地御前小学校PTA育成部員や自治会の他事業部の方々の協力のお陰で、安全確保にも配慮しながら賑やかに開催することができた。



射的のようす



クイズを見つけて回答



的あてのようす

1年生から6年生までが各々友達同士でチームを作って参加するので、年齢的なハンディがあっても同じように得点できるよう、各ゲームは工夫されていた。それが功を奏して、順位は低学年・高学年が入り乱れる結果となった。低学年も上位入賞で大量のお菓子を賞として受け取り、とても嬉しそうだった。



(文川口栄作)

## 3年ぶり 市民センターまつり開催

2022年10月22〜23日、地御前市民センター祭が開催された。日頃市民センターで活動している各サークルの作品展示や芸能発表があった。

事前に集められた遊休品販売、展示ではパソコンサークル、書道、生け花、ペン習字、日本画、小物や衣類のリメイクなど。芸能ではカラオケ演歌、合唱、大正琴、フォークダンス、リメイク服のファッションショーなど。自治会や

自主防災会の展示もあった。パソコンサークルの展示は、手書きの水彩画のような絵葉書だったので、いろいろ尋ねてみると、マウスとパソコンだけで作ったものだとのこと驚いた。リメイクのサークルは古い着物を元に、今ではなかなか手に入らないような生地を使った洋服などが興味深かった。生け花や日本画などは、素人離れた作品もあった。



演芸発表は、出演者もスタッフも、皆さんが大なり小なりサービス精神旺盛な方々で、これもまた刺激を受けた。自前の北歐風衣装でフォークダンスを披露したサークルは、初々しさや可愛らしさが溢れていた。カラオケを披露する人たちも、ドレスや和装、三度笠スタイルで、全力の本気モードで歌う姿がとても楽しそうだった。



## 市民センターまつりの裏方話

事前の遊休品収集や販売品の購入、金曜日午前中のテント設置や展示などの会場準備、土曜日の催し物運営、土曜日夜のステージ音響設置、日曜日の催し物運営、後片付けなど、二つの行事でも本場に大勢が関わって、それぞれ労を惜しまない働きで成り立っている。スタッフ平均年齢は計算したことがないが、70歳超えにはなるだろう。

準備しながら「好きじゃないとできんよね」と誰かが話していた。確かに全員に当てはまる。娘が地御前保育園に通っていた頃に行った参観日の道徳の授業をぶと思いついた。子どもたちが自分の好きなものを発表し、それから先生が次の内容を電子黒板に映して話をした。

「ほくが好きなもの。お母さんお父さん、魚釣り、焼きたてのクロワッサン、お風呂から出て体を拭くときにヒーローのようにタオルをマントにして居間を走ること、海と空、そして自分が好き。」

どのサークルも、自分が楽しいと思っていることを一緒にやっている人たちの集まりだ。熱唱する方々だけでなく、パソコンサークルやペン習字サークル、大

正琴サークル、リユース作品作りのサークルの方々も、趣味のことを話す姿に自己肯定感が高められているのを感じる。

私は今年から、お誘いを受けてシニアクラブに加入して、音響の手伝いをしたのだが、またこの音響設備が詳しい人の組んだ本格的なもので、手伝いの都度、対応できる機能の多さに驚かされる。全てニーズに応じてその都度アップグレードしたもの。さらには機器のラックも手作りでコンパクトにできている。多種多様なケーブル類が、使いやすく片付けやすいルールにセットされている。全部手作り。今回も事前に機材が加わって前回よりグレードアップしていた。また、催しの終了後に、今

回の機材増強に対応して、カウナー追加の打合せをしていた。また、催しの終了後に、今



会が終わって、片付けも済んだ時に、自治会が用意して下さったアイスクャンディーを私がどんどん配っていたら、年配の女性に声をかけられた。「お兄ちゃん、よ〜気がきいて優しいねえ」これにはさすがに笑いながら「そ

んな!？僕はもう56ですよ」と応えたが、「私からしたら全然「お兄ちゃんよねえ」と。まあ確かにそりゃそうかもしれないけど。(笑)初対面でもそんな談笑ができるなんて、とても有り難いことだ。その体験を帰って家内にしたら「嬉しかったんでしょ。」と言われて、ん〜この歳になってそれはちよつと違うかなあとは思いつつも、客観的には嬉しかったというのが確かに一番近いのかもしれないなあと思った。

もう何十年も他の人から「お兄ちゃん」と呼ばれたことなどなかった。ただ、自治会ではそういう立ち位置であることは感じていたし、楽しいと感じる理由は意外と単純にそこなのかもしれない。好きなことを持つことはとても大切だと改めて思った。社会人になってからは忙しすぎて、年をとってから改めて探して始めることのほうが多いかもしれない。それにサービス精神は大切だなあとも思った。また、好きなことがあると、そこからいろんな形で人とのつながりが広がるということにも気づかされた。こんな方程式が成り立つのかも。自己肯定感、好きなこと+サービス精神。今、私は好きなことがいくつあるだろうか。生活を豊かにしてくれる「好きなこと」をコツコツと増やしてゆきたいものだ。

(文桐林 潤)